

23PO-am002S

ピラゾール誘導体の合成とその構造解析

○小峠 里佳¹, 西山 卓志¹, 山内 明², 及川 勉³, 日比野 俐¹, 町支 臣成¹ (¹福山大薬,
²川崎医大, ³神奈川県立保健福祉大)

【目的】 これまでにジベンゾイルメタン誘導体 **1** の合成とその反応性を利用し、ピリミジン、ピラゾール及びフラン誘導体を合成し、様々な機能性を調べつつ新規生理活性化合物の探索研究を行ってきた。ジベンゾイルメタン体 **1** に *N,N*-dimethylformamide dimethyl acetal を反応させて誘導されるジメチルアミノメチリデン体 **2** に対し、ヒドラジン誘導体を反応させると構造異性体である 2 種ピラゾール誘導体 **3a,b** が混合物として得られる。今回その選択的合成を検討した。

【方法】 ジメチルアミノメチリデン体 **2** に対し、 MeNHNH_2 を反応させ生成する 2 種のピラゾール誘導体 **3a,b** の選択的合成条件の検討を行うと共に、両化合物の構造決定を行った。また、メチル基以外の置換基をもつヒドラジン誘導体を使ったピラゾール誘導体合成を行い、その生成比に与える影響についても検討を行った。

【結果】 生成する 2 種のピラゾール **3a,b** の生成比は、反応溶媒によって影響を受けることが明らかになった。また、2 種のピラゾール誘導体の構造的特徴は、ピラゾール骨格上の C3 位あるいは C5 位プロトンの ¹H-NMR のケミカルシフト値とそれらプロトンに対する NOE

測定による相関関係により構造決定が可能であった。

